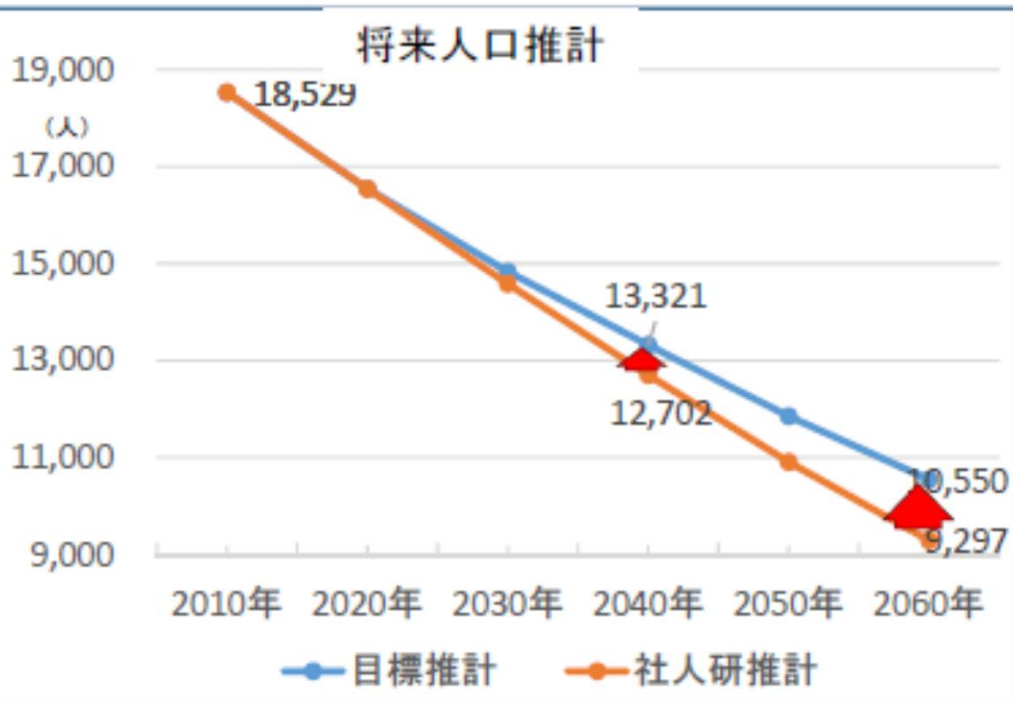


令和元年度 第1回地方創生推進会議資料

令和元年9月2日
琴浦町企画政策課

第1期琴浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要①

人口ビジョン（2015年10月策定）



- 目標推計**
- ・合計特殊出生率が上昇し、その後一定（2025年：1.80、2040年：2.07）
 - ・転出超過が2025年までに6割減少し、2040年までに転入転出者数が均衡
- 社人研推計**
- ・合計特殊出生率が下降し、その後一定（2020年：1.607、2040年：1.583）
 - ・転出超過が今後10年かけて半減し、その後一定

【将来の人口目標】

- 2040年目標人口 13,321人（社人研^{※1}推計と比べ 619人増）
- 2060年目標人口 10,550人（社人研推計と比べ 1,253人増）

※1：国立社会保障・人口問題研究所の略称



自然動態に対する目標

- ①2025年までに合計特殊出生率を1.80に引き上げる。
- ②2040年までに人口置換水準である2.07まで引き上げる。

社会動態に対する目標

- ①2025年までに社会移動による人口減を6割減らす。
- ②2040年までに社会移動による人口減少をなくす。

第1期琴浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要②

総合戦略とは

- ・「まち・ひと・しごと創生法」に法的根拠 第10条（努力義務）
- ・「琴浦町人口ビジョン」を踏まえて人口減対策及び地域の元気づくりに向けた基本目標や施策の基本的方向、具体的施策を定めたもの
- ・計画年度 平成27年度から令和元年度（5年間）

基本方針

人口ビジョンで示した目標人口を達成するよう、**次世代の琴浦町を担う「ひとづくり」を中心に**、誰もが地域社会で活躍できる「しごとづくり」、賑わいがあり安心して暮らせる「まちづくり」をすすめ、住民満足度の高いまちを目指します。

町民一人ひとりの「ひと」の活力が、「まち」全体の元気と希望につながるという理念のもと、町の将来像を以下のとおりとします。

ひとが輝き まちが輝く コトウライフの創生

基本テーマ

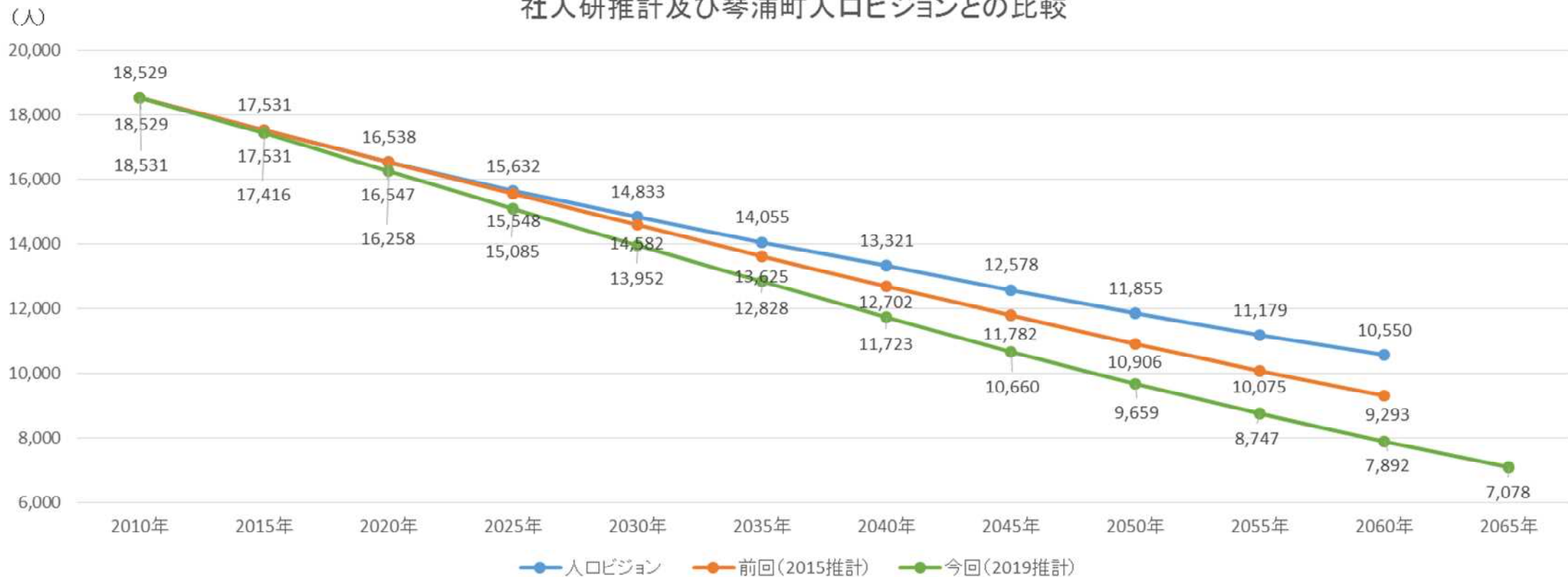


第1期琴浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証①

琴浦町の人口推計（令和元年度6月版）

列1	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
人口ビジョン	18,529	17,531	16,538	15,632	14,833	14,055	13,321	12,578	11,855	11,179	10,550	
前回（2015推計）	18,529	17,531	16,547	15,548	14,582	13,625	12,702	11,782	10,906	10,075	9,293	
今回（2019推計）	18,531	17,416	16,258	15,085	13,952	12,828	11,723	10,660	9,659	8,747	7,892	7,078
目標人口との差	2	-115	-280	-547	-881	-1,227	-1,598	-1,917	-2,195	-2,432	-2,658	

社人研推計及び琴浦町人口ビジョンとの比較



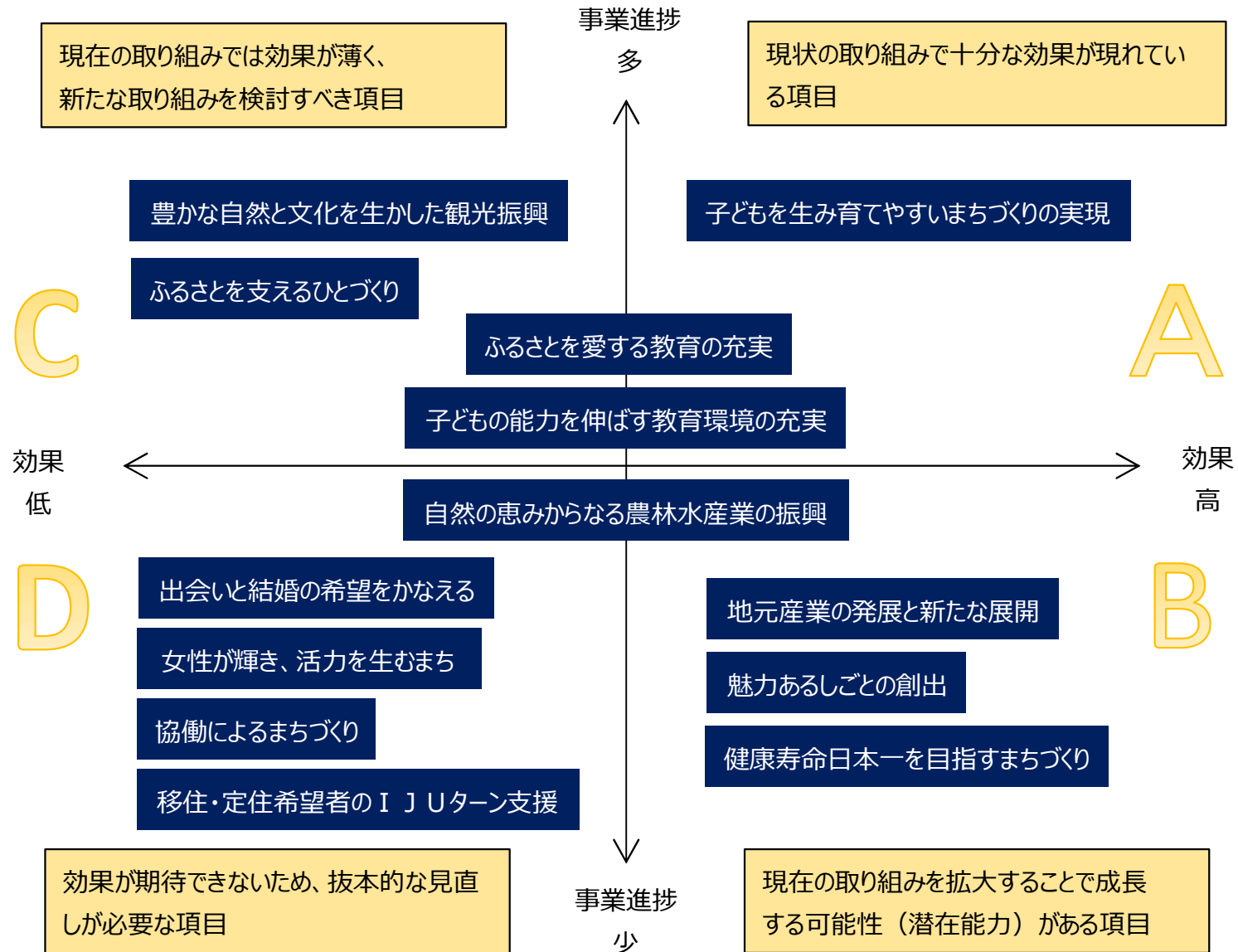
第1期琴浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証②

総合戦略の目標数値からみる効果

テーマ		成果目標	単位	基準値	H31目標値	H30実績値	増減	達成度	効果	関連する重点項目	備考
育む	地域の宝である子どもを産み育てやすいまちづくり	事業実施による成婚数（H27～H31の累計）	組	5	15	4	△ 11	26.7%	低	出会いと結婚の希望をかなえる	くる♡くるツアーお寺で縁結び 広域連携事業
		合計特殊出生率	率	1.59	1.71	1.73	0.02	101.2%	高	子どもを生み育てやすいまちづくりの実現	現時点での最新数値(H29)
		25歳時点における町内定着率	%	なし	80%	-	-	-	-	-	子どもの能力を伸ばす教育環境の充実 ふるさとを愛する教育の充実
創る	安定した就労環境の整備と魅力あるしごとづくり	農林水産業への就業者数（H27～H31の累計）	人	1	30	22	△ 8	73.3%	低	自然の恵みからなる農林水産業の振興	H27～H30累計
		起業創業件数（H27～H31の累計）	件	1	9	8	△ 1	88.9%	高	地元産業の発展と新たな展開 魅力あるしごとの創出	鍼灸マッサージMOMINOKI みんなの塾あかさき スマイル・ラボ パティスリーモンテ
輝く	ふるさとの魅力を誇り、生き生きと輝くひとづくり	年間観光入込数	人	713,000	927,000	676,000	△ 251,000	72.9%	低	豊かな自然と文化を生かした観光振興	
		課題解決に向けた地域活動団体等の年間活動数	回	なし	150	-	-	-	-	-	女性が輝き、活力を生むまち協働によるまちづくり ふるさとを支えるひとづくり
根づく	だれもが健康で心豊かに暮らせるまちづくり	社会移動による人口減少数（H27～H31の累計）	人	-272	-200	-254	△ 54	0.0%	低	移住・定住希望者のI J Uターン支援	社会移動（H30△113人）
		健康寿命の延伸（H27とH31の比較）	歳	なし	1.00	0.92	△ 0.08	92.0%	高	健康寿命日本一を目指すまちづくり	

第1期琴浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証③

効果と事業進捗状況との相関



合計特殊出生率は、戦略策定時より上昇し、目標値数値を超えている。

出生数や第3子以降の出生数も増加傾向にあり、「子どもを産み育てやすいまちづくりの実現」については順調に進捗している。

「健康寿命日本一を目指すまちづくり」では健康寿命1歳延伸を達成見込みにある。

新規創業、新規就農者数も目標達成見込みであり、農産品の販売高も増加している。

反面、転出による人口減少を抑制することは難しく、目標達成困難な状況にある。

観光面では素材を活かしきれていないため、観光客数が伸びていない。

これらは課題として今後検討していく必要がある。

第1期琴浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証④

重点項目の検証

重点項目	検証
出会いと結婚の希望をかなえる	広域連合主催の婚活イベントへの参加者数が好調であったが、成婚数は増加していない。婚活支援を町で継続すべきか検討を要する。
子どもを生み育てやすいまちづくりの実現	出生数、第3子以降の出生数共に伸びがあり、順調に推移している。子どもを複数持ちたい世帯の希望をかなえることに繋がっていると考えられる。多子出生に対する取り組みを拡充するも案の一つ。男性の育児休業の取り組みに課題が残る。
子どもの能力を伸ばす教育環境の充実	小6時点での学力は県平均より上であるが、中3時点では県平均より下回る数値となっている。中学校における学力向上の取り組みに改善を要する。不登校の児童生徒数も増加しているため、この点も改善を要する部分。
ふるさとを愛する教育の充実	ことうら子どもパーク、芸術・音楽体験など順調に事業は進捗している。しかしながら、ふるさとへの愛着に関するアンケート数値は、特に変化はない。生まれ育った地域への愛着を高めるための取り組みをどうするのか、これからの課題となる。
自然の恵みからなる農林水産業の振興	新規就業者数については目標数値に近づくことが可能。また、農業法人数、作付面積など基準となる数値はともに伸びており、効果があらわれていると考える。一方で耕作放棄地は増加し続けているため、担い手育成と規模拡大・集約が求められている。
地元産業の発展と新たな展開	新規契約、海外への販路拡大については順調。優良血統和牛の導入も目標値に近づいている。販売額も上昇傾向にあるため、これまでの取り組みを継続する方向でよいか。
魅力あるしごとの創出	移住者の起業支援に効果があり、新規起業が順調に推移している。このまま継続していくべき事業と考える。企業誘致については、ワークシェアやサテライトオフィスに対する支援など企業誘致にこだわらない取り組みが必要か。再生可能エネルギーの活用は、これまで弱い部分であり、再検討を要する。
豊かな自然と文化を生かした観光振興	観光入込客数は大きな変化はなく、目標値達成は困難な状況。観光資源は多くあり、潜在的部分をどのように関連付けて活かしていくのが今後の課題となる。
女性が輝き、活力を生むまち	女性活躍、男女共同参画に関して、非常に取り組みが弱い部分である。全世代総活躍社会の実現のためには注力すべき項目。
協働によるまちづくり	各地区振興協議会、まちづくりネットワーク、地域づくり団体に対する町の支援により、活動が図られている。町の支援がなくなったときに継続して活動できるのが課題。
ふるさとを支えるひとづくり	琴浦こども塾、熱中小学校ともに第1期総合戦略の事業として取り組んできたが、今後自主運営に移行できるのが課題。数値目標からは事業効果は高くないが、長期的な視点が必要な項目。
移住・定住希望者のJUターン支援	都市部への人口集中は加速しており、平成30年度の段階で社会減の目標値を超える結果となった。これまでの取り組みを継続するだけでは改善は図れない。抜本的な見直しが必要。
健康寿命日本一を目指すまちづくり	高血糖、高血圧、肥満の割合は目標値に達していない。75歳以上の介護認定率も目標値には遠い。数値上での改善が見られないが、結果として健康寿命は延伸している。平均寿命の延長も要因ひとつと考えられる。健康で活躍できる状態をいかに保つかに目標を切り替えて展開する必要あり。

第1期琴浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証⑨

H30年度 地方創生推進交付金事業の実績

推進交付金事業名	事業費	平成30年度の実施状況	備考
生き生き高齢者、遊びきる子ども～アクティブ“コトウライフ”の実現	2,089	高齢者活動プログラムの開発委託を行い、健口・栄養教室としてプログラムの試験運用を行った。 高齢者の活動活性化のために、アクティブ活動支援センターを設置し、本年度は高齢者等の活動情報の収集とホームページによる情報公開を行った。 子どもと高齢者が遊びを通じて交流する場としてプレーパークどんぐりを開催	H30終了
2次交通整備によるFIT受入対応実験事業	3,884	鳥取中部ふるさと広域連合が(一社)鳥取中部観光推進機構に対して委託する事業に係る連携市町村負担金。 4月から委託契約を行い、事業実施中である。 中部圏域全体として広域観光の推進を図っている。	R2年度まで
名峰「大山」とともに生きる・鳥取県西部圏域の広域観光推進プロジェクト	1,137	倉吉市との連携事業として「東大山古道トレッキング」イベントを9月14～16日に設定し、琴浦町は「森林浴スポット大山滝トレイル」を開催した。	R2年度まで
「大人の社会塾」を中心とした人材育成による地域活性化事業	14,475	旧以西小学校ランチルームの空調整備と1階部分の既設トイレの改修 とっとり琴浦熱中小学校を10月27日に開校し、3月までの第1期(全6回)を実施 熱中通販プロジェクトを(株)ECコンサルカンパニーに委託し、町内での出店事業者の登録を進めた。	R2年度まで
未来を拓く☆ことうら農・漁のまちづくり	2,638	県外バイヤーを町内に招聘し、商談会及び現地視察を行いバイヤーへ町産品のPR 琴浦フェアを県外3会場で開催し、町産品をPR ドクダミ等の栽培実証を行い、生育状況や成分等の研究を行ったほか、販路を開拓し出荷 農業体験ツアーを9月に実施(4名参加) このツアー参加者のうち、1名が農業研修生として研修を開始	H30終了
「活きがちがう！陸でギンザケの泳ぐ日本一のまち」新産業創出戦略事業	3,000	とっとり琴浦グランサーモンフェスタの実施 町内飲食店等16店舗と連携し、定番メニューの開発に取組むとともに、スタンプラリーを実施 首都圏におけるPR事業 グランサーモンの品質向上や認知度向上につなげるため首都圏のシェフを対象とした料理セミナーを開催	H30終了
鳥取県養殖技術創出事業	13,665	施設整備完成が年度内に完成できなかったが、2名の職員を採用し、技術指導を行った。	R2年度まで
合計	40,889		

第2期琴浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定①

概要

1 計画期間

令和2年度～6年度(5年間)

総花的であった
第1期からの転換

2 策定方針

第1期戦略の検証結果を元に住民アンケートや住民会議により意見収集を行い、効果的で実効ある取り組みに絞った戦略を策定

3 策定の視点

- (1)住民の意見を基軸にして作成
- (2)第1期の検証から町の特色を活かす分野を重点施策に
- (3)Soiety5.0、SDGs、IoT、ビッグデータの活用など新たな考えに着目
- (4)自治体間の連携、共同化
- (5)「ひとづくり」の視点を持った上で、戦略に反映

全体スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地方創生推進本部会議		■		■		■		■	
地方創生推進会議			■			■	■	■	
住民アンケート			■	■					
住民会議					■	■			
戦略策定WG		■	■	■	■	■	■		
パブリックコメント							■	■	

地方創生推進会議
年4回開催予定
次回は12月を予定

町の次期総合戦略策定は、令和2年3月末を予定

※国の総合戦略は年内、県の総合戦略は3月末策定を予定している。内容を勘案する必要があるため調整が生じます。

第2期琴浦町まち・ひと・しごと創生総合戦略の策定②

推進体制

地方創生推進本部会議

総括、策定、推進

○委員

町長（本部長）以下管理職員

○役割

情報収集及び分析

人口減少対策、地域活性化対策の検討

地域活性化対策の横断的かつ総合的な視点での検討

総合戦略の企画及び立案並びに推進

総合調整

戦略策定

ワーキンググループ

連携

地方創生推進会議

検討、評価、検証

住民会議

戦略に対する意見聴取

住民意見を聴取するための新たな取り組み

(敬称略)

琴浦町商工会	会長	馬野 慎一郎
琴浦町観光協会	会長	山下 一郎
鳥取県中部農林局	副局長	河田 強
琴浦町	副町長	山口 秀樹
琴浦町	参与	深谷 信介
鳥取大学工学部	助教	長曾我部 まどか
琴浦町	教育委員	石前 富久美
山陰合同銀行東伯支店	支店長	加藤 公司
連合鳥取	副会長	澤田 陽子
新日本海新聞中部本社	総局長	宇田川 靖
森本外科・脳神経外科医院	副院長	金田 弘子

○役割

人口ビジョン策定の検討

総合戦略策定の検討

総合戦略の進捗評価及び検証

地方創生関連事業の検討

第2期における人口ビジョン

2015年10月に作成した人口ビジョンの対象期間は、2060年までの長期にわたる。

現時点での将来推計値は示されているが、第2期の総合戦略期間である2025年までを考えると大きな差はない。

このため、現時点での目標人口については、原則として修正はしない。

ただし、見直すことが可能な数値や図表については、点検することとし、必要に応じて時点修正を行う。

※この方針については、国・県も同様

基本方針

- ・想定を超える都市部への人口集中や高齢化
- ・人口減少社会において、地方が人口を維持していくことは困難
- ・学業・仕事で一時的に町を離れることは、仕方ない
- ・いつか琴浦町に戻ってこれる場所をつくる必要がある

人口を取り合う政策ではなく、琴浦町に暮らしてよかったと胸を張って言えるまちにすることを目標に

行政の質を高め、町民の暮らしと事業所の活動を充実していくことで、人口減少の抑制へとつなげる

ことうら未来カフェ ～10年後のまちの姿を100人で話してみませんか～

町民等100人での住民会議で参加者の意見をまとめ、次期総合戦略で取り組むべき施策のキーワードや方向性を引き出します。カフェで談笑するようなイメージの気軽な話し合いの場とします。



とき 11月16日(土)・24日(日) 午後1時～
ところ 東伯勤労者体育センター
ファシリテーター 鳥取大学 長曾我部まどか先生
サブファシリテーター 町職員(総合戦略WG)
" 鳥取大学学生(書記)
・1つのテーマを全員でテーブルごとに話し合う
・話し合った結果の模造紙は壁面に貼り付け全員で共有

6～7人×16テーブル

無作為抽出での依頼+公募+職員+鳥大生=100人

○ワークショップのテーマ

- 1日目 ①「産業」 ことうらで「働く・稼ぐ」を考える
②「観光」 ことうらで「楽しむ」を考える
- 2日目 ①「教育・子育て」 ことうらで「育つ・学ぶ」を考える
②「健康」 ことうらで「元気に暮らす」を考える

○住民会議の目的

各テーマにおける「理想のまちの姿」から「ギャップ、困りごと、心配ごと」を洗い出す。
それらを解決するために、どんな取り組みが考えられて、そのために自分ができることを意識づける。